

《題目》White, Yellow & Black

『White, Yellow & Black』

『自由平等の国、アメリカ』と言う言葉は、日本でも、殆どの方が聞いたことがあると思います。ある時、会社の同僚から、「アメリカでは頻繁に、“自由平等の国アメリカ”と言う言葉を、様々なところで、頻繁に、見たり聞いたりするでしょう。日本では、殆ど聞かないよね。何故だと思います？」と聞かれたことがあります。その時、私には判りませんでした。すると、彼は、「アメリカでは、頻繁に“自由平等”を叫んでいないと、人種差別が酷くなるから」と教えてくれました。「日本では、殆ど差別などが無いから、“頻繁に自由平等”を叫ぶ必要が無いのです」とも教えてくれました。私が勤務した外資系企業は、大学卒業後、最初に入社した米国系製薬企業のブリストル・マイヤーズ、その後、サンフランシスコに本社がある Bio-Rad Laboratories の 2 社だけですが、US の友人の関係で、他にも 3 社程の企業と打ち合わせしたことがあります。しかし、アメリカ (United State of America, 以後 US と略す) を代表する企業の経営層で白人以外の人を見たことがありません。我々 Yellow にも、Black にも、そのような能力は無いのでしょうか？

US 社会は実力社会だから、収入の少ない多くの Yellow や Black の家庭に育った人は、幼い頃、学習塾に通うこともできず、学費の高い有名大学に入るには学力不足で、結果として、社会の中で高い地位に就けない、というのも事実でしょう。私には Black の友人がいます。彼とは 20 年来の友人で、極めて優秀で、頭脳明晰な人です。私が外資系会社を離れて 10 年以上になりますが、彼とは未だに友人として、親しくしております。彼は、あるセクションのマネージャーをしており、彼のマネージメントスキルは、当時の白人の幹部社員より優れていると感じました。それでも、彼は、この“あるセクションマネージャー”より上の地位にはプロモートされませんでした。理由は、彼が Black だからだと思っています。それしか思い当たりません。人種差別の激しい US 社会の中で、このような事を、気安く本心では絶対に言ってくれません。本当に信頼できる人間であると思うまでは、絶対に本心は言ってくれません。

この“本音は絶対に言ってくれない”のは、White も同じです。どんなに Yellow や Black に対する差別意識を持っていたとしても、言葉に出すことはありませんし、態度に出すことも、殆どありません。彼らにとって、日本人は「White より劣った Yellow Monkey」なのです。私には White の友人（ここでも上辺の付き合いではなく、本音で話し合える友人です）も、複数います。その皆と下記の事項などを話し、私の意見を認めてくれました。

【世界史で習った事項＝私が考える客観的説明】

例 1 《十字軍の遠征＝キリスト教によるイスラム社会の殲滅作戦》

例 2 《新大陸の発見＝白人によるアフリカ・アジア・北南アメリカへの傲慢な侵略》

例 3 《欧米諸国の世界植民地化⇒物質文明による有色人種の隷属化》 など

高校等で学習する世界史に出てくる新大陸の発見などは、白人から見た世界観であり、例えば、US は『新大陸』ではなく、Native American が暮らしていた国です。このような歴史観が、必ずしも、客観的に正しいとは思っていません。様々な意見があるでしょう。白人が産業革命を経て、強力な物質文明を作り出し、月面探査や火星・金星等にまで到達できる技術や急速に進歩している IT 技術を進歩させ、今日の極めて高度な社会を作り出したことは事実でしょう。しかし、自然との共存の中で、自然とともに発展することを選んだ Yellow、自然とともに共存することを選んだ Black が、White より劣っていると言えますか？キュリー夫人が放射性物質を発展させたことに繋がる核兵器や原子力発電所の問題や、ノーベルが発明した爆薬が戦争をより悲惨なものにし、核兵器にまで繋がること、化石燃料の大量消費による CO₂ などによるオゾンホールの問題など、全て“物質文明”が引き起こし、全人類を巻き込んだ大災害です。

私は、「White が劣っていて、Yellow が優れている」などと言うつもりはありません。今日の高度な科学技術は、White によって齎されたものでしょう。しかし、それとともに、上記のような罪悪を作り

出したのも、“物質文明”ではありませんか。やはり、最も優れた人種は White なのでしょうか。

最後に、私の心の中に、Black の人達を蔑視する感情が皆無かと言われれば、答えは“NO”だと思います。たぶん、この気持ちが消え去ることはないと思います。White・Yellow・Black という差別が地球上の全ての人から消え去るのは、遠い将来かも知れませんが、精神的にも経済的にも対等となり、人種差別が無くなる日が来ると、私は念じています。